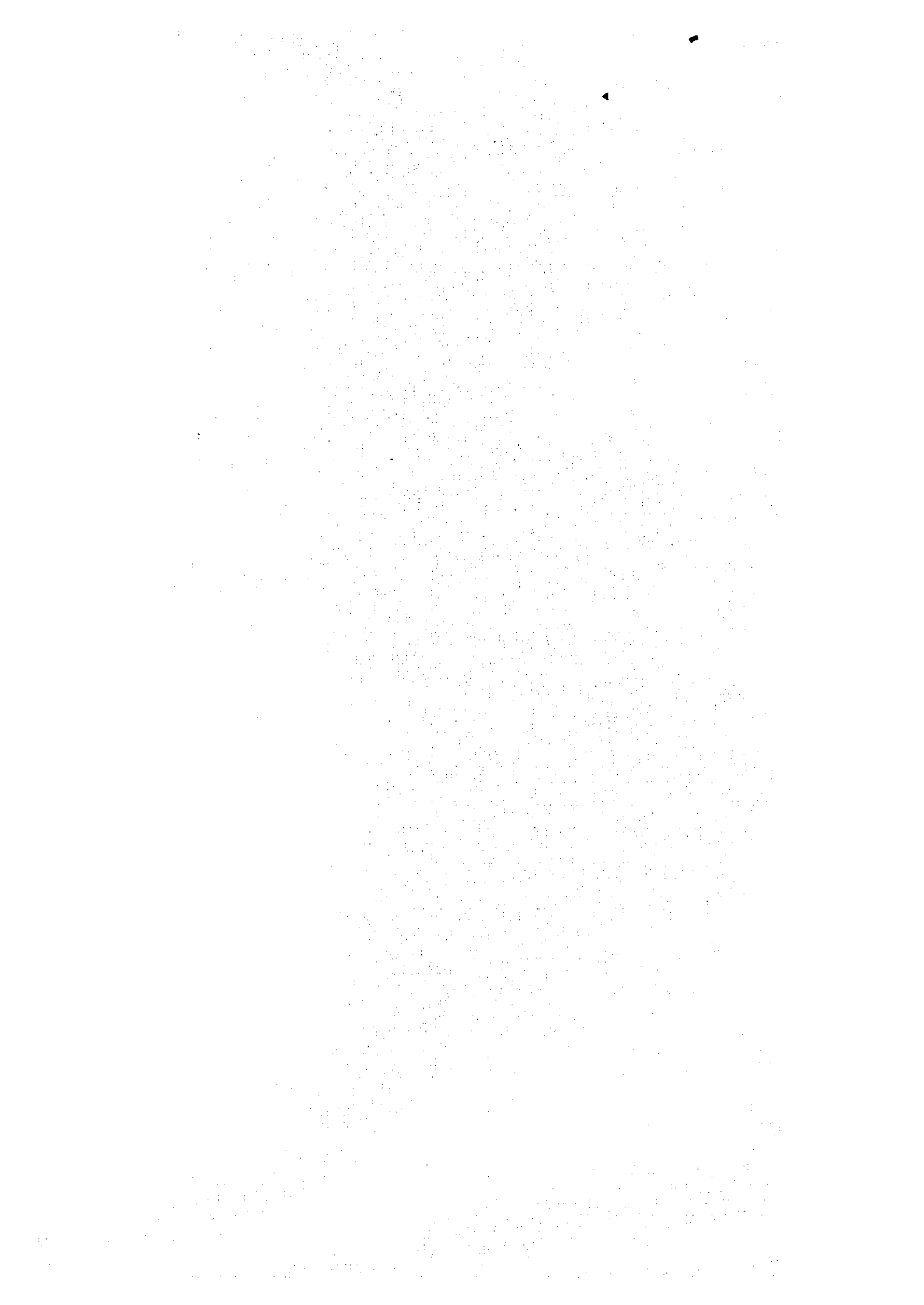


UIC
512
214
FLV
BRARY



国別WID情報整備調査

ガーナ

Ghana : Country WID Profile

平成9年3月

国際協力事業団

企画部

JICA LIBRARY



J 1146227 (2)

環境

JR

98-71

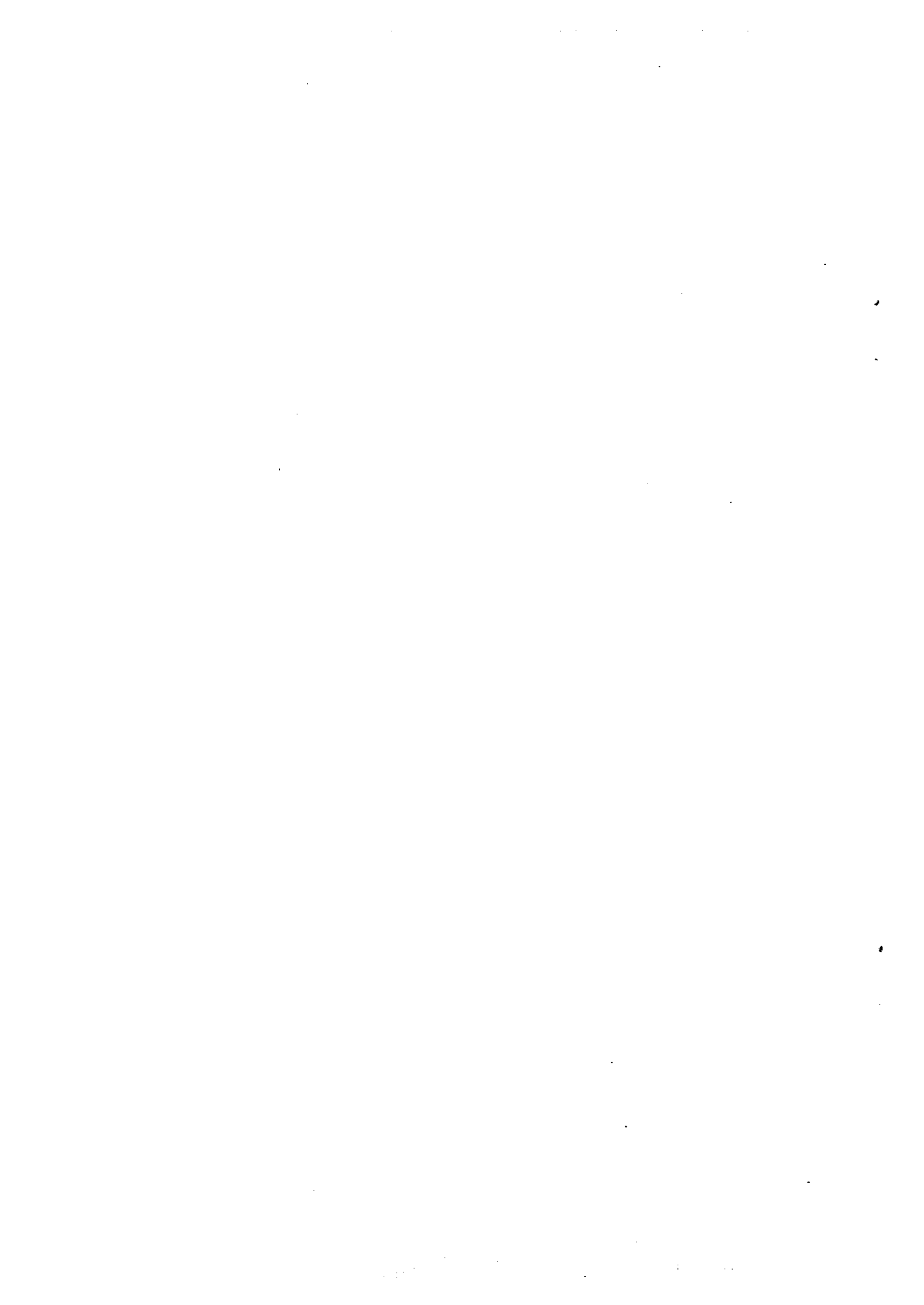


1146227(2)

国別WID情報整備調査
(ガーナ国)

目次

1. WID/ジェンダーに関する概要と政府の取り組み	
1-1 ガーナの女性の概要	1
1-2 文化・社会的背景	1
1-3 WID/ジェンダーに関するガーナ政府の取り組み (WID/ジェンダー政策、ナショナルマシーナリー等)	2
2. 主要セクターにおけるWID/ジェンダー	
2-1 教育分野	4
2-2 保健医療分野	7
2-3 農林水産業分野	10
2-4 経済活動分野(鉱工業・手工業・サービス業等)	13
3. 国際機関・その他の機関のWID/ジェンダー関連援助実績	16
4. 情報入手可能組織/人材リスト	16
5. 関連文献リスト	18
6. 当調査実施に関する情報	15
7. 引用文献	21



1 WID/ジェンダーに関する概要と政府の取り組み

1-1 概要

ガーナは1957年にイギリスからの支配を離れ、アフリカ諸国の中で最初に独立国となった。独立当初は世界の金の10%を産出、外貨準備高は10億USドル、一人当たりの所得はスペインと同程度で、アフリカで最も進んだ国とされていた。しかし、1970年代にはいくつかのクーデターが起こり、1983年には公共交通機関は燃料・部品不足のため運行を停止し、工場の稼働率は10分の1に下がり、病院には治療に必要な物資もなくなった。また、同年、隣国ナイジェリアからガーナ人100万人が追放されたことにより失業問題も悪化していった。この中で、ガーナ政府は世銀・IMFの主導の下、1983～88年に、経済再建復興計画を実行した。その結果、ガーナ経済の2大悪であった為替の過大評価と高インフレを同時に克服し、現在では「IMFの優等生」といわれる。

ガーナ経済の基本は英国植民地時代に根付いたプランテーション農業である。特にカカオ栽培中心のモノカルチャー経済であり、カカオは輸出額の27%を占めている。しかし、カカオの国際価格が不安定であることや人口増加率が年率3%と高いことから、今後さらに、構造調整を成功させ経済を持続的に成長させるためには、「国際収支改善に寄与する産業の育成、社会サービスの充実と受益者の開発への参加促進、が重要であるとされている。特に、1983年からの経済再建復興計画の実施により、社会サービス部門にしわ寄せが来ており、計画実施後の比較的良好な経済成長にも係わらず、国民の半分はいまだに絶対的貧困の状態にある。また、社会インフラも未整備であり、農村部では安全な水へのアクセスがある人の比率は52%、適切な衛生施設をもつ人の比率は44%である。

独立後、すぐに教育改革に乗り出したため、アフリカの中では比較的識字率が高く、1995年の成人識字率は65%で、初等教育の就学率は男女共に70%以上と高い。しかし、家庭が貧困なために中退する者が特に北部で多く、また、男子より女子に多い。そのため、中等教育、高等教育と教育レベルが上がるにつれ女子の就学率は低くなり、大学の就学率は男子41%に対して、女子9%である。この女性の教育レベルの低さは、将来の就職に影響を与えており、フォーマルセクターに勤める女性は女性労働人口の1割である。また、フォーマルセクターに従事していても女性の仕事内容は単純作業に偏る傾向があり、賃金や昇進の可能性は低く、役職や管理職など意志決定権をもつ地位に女性が就くことは少ない。

1-2 文化・社会的背景

人口の約50%がキリスト教徒で、その多くは中部、南部に居住している。北部ではイスラム教徒が多く、その他数多くの伝統的な宗教が全国各地で見られる。ガーナにおいては政治・経済・社会生活の各分野で女性の参加を妨げるような法律は存在しておらず、女性と男性は同等の権利を所有している。しかしながら、ガーナは80の部族からなる多部族国家で、いずれの部族においても女性は男性に比べて劣るもの、すなわち、女性は男性により守られるべき存在として捉えられている。一夫多妻制、幼児婚が行われており、未亡人は亡き夫の土地を相続する権利を持たない。このような価値観や制度が女性の社会参加を妨げてきた。

ガーナは伝統的に大家族をよしとする風潮があり、多産である。そのため、若い夫婦はできるだけ多くの子

供を持つと努力し、子供のいない女性の運命は惨めであるという。また、女性は子供の数に関して意志決定権を持っておらず、希望する子供数について夫である男性と話し合うという習慣もないため、家族計画はあまり普及していない。離婚は認められているが、農村社会では、離婚が女性の汚名となることもあり、また、女性に経済力が無い場合は、離婚したくてもできずに家庭に縛られることもある (Fayorsey,1997)。

1-3 WID/ジェンダー分野における政府の取り組み

◆WID/ジェンダー政策

国家開発と女性委員会 (以下、NCWD) は1975年に設立された。NCWDは設立直後に10ヵ年活動計画を策定し、この中では、識字教育、ノンフォーマル教育を最優先課題として取り上げた。また、1985年には15ヵ年活動計画を策定し、この中では女性の教育、保健、法律、政治参加に焦点を当てている。また、NCWDは1979年より政策立案者や理事会等に女性を起用することを提言しており、1991年には共和国憲法の第4回改訂にあたり、女性の立場からの提言を政府に提出すると共に、憲法の見直しを行う諮問委員会に女性の定員を確保するように働きかけた。

◆ナショナル・マシーナリー

名称	国家開発と女性委員会 (National Council on Women and Development:NCWD)
設立年	1975年
職員数	120名 (全国10州、及びプロジェクト地域に分散)
主な機能と役割	<ol style="list-style-type: none"> 1) 国家開発の中に女性を十分に統合するための政府への助言 2) 国家・国際機関に対する女性問題の国代表、及び窓口 3) 風習的な信仰・偏見が女性の教育・社会・政治・経済的な前進に及ぼす影響についての研究 4) 報告書、パンフレット、ビデオなどを用いたジェンダー関連情報の普及 5) ジェンダー関連プロジェクトを支援するドナー間の調整 6) 女性組織、NGOの登録、及び運営上の規制管理

国家開発と女性委員会 (National Council on Women and Development) は、女性の地位の向上を促進するためのナショナル・マシーナリーとして国連の助言に応える形で1975年に設立された。同委員会は農林水産省、文部省、保健省、労働省、社会福祉省、情報省、経済企画省、外務省からの代表者、及び各省のWID専門家男女から成り立っている。主な活動は、女性の経済活動を促進するための収入創出プロジェクトの実施、女性が抱える問題や問題解決のための調査、カウンセリング、一般大衆に向けた識字教育、女性週間の設定、第4回世界女性会議のフォローアップ等である。

◆他省庁によるWID/ジェンダー関連の主要取り組み事項

保健省	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養局による農業普及サービスの実施 ・教育省との共同による学校保健サービスの提供 ・一般大衆、特に若者を対象としたリプロダクティブ・ヘルス・サービスの提供
教育省	<ul style="list-style-type: none"> ・非識字者を対象としたノンフォーマル教育（女性の比率54%） ・女子学生数と男子学生数の不均衡是正のための教育の機会均等プログラムの実施 ・科学/技術/数学等の学部で女子学生を増やすための特別プログラム（教材開発等）の実施 ・保健省との共同による学校保健サービスの提供 ・家族生活教育プログラム（Family Life Education Programme）の実施
食糧農業省	<ul style="list-style-type: none"> ・農業開発と女性局（WIAD）の設置 ・WIADによる農業、栄養、食品加工、食糧保存、住居改善等に関する専門家養成プログラムの計画・実施

2 主要セクターにおけるWID/ジェンダー・イシュー

2-1 教育

- 1) 独立当初から教育に重点を置いてきたため成人の総識字率（65%）は比較的高いが、まだ男女間で20%以上の開きがある
- 2) 初等教育の総就学率は男女共に70%以上で男女格差は少ないが、教育レベルが上がるにつれ就学率の男女格差が拡大する
- 3) 大学教育を受ける女子の比率（9%）は男子（41%）に比べて極端に少なく、また、科学専攻では、男子学生の数が女子学生の数を圧倒している
- 4) 女性教員の数が少なく、教育分野における女子の役割モデルが欠如している

◆概況

ガーナはアフリカの中で最も早く、1957年にイギリスから独立したこともあり、政府は早くから教育に重点を置いてきた。そのため1995年の成人の総識字率は65%（女性54%、男性76%、世界子供白書1997）と、アフリカ諸国の中では高い方である。しかし近年、財政難から国外に流出する教師が増加したため、教員数が不足しており、その質の低下も問題となっている。

政府が1985年に開始した新教育制度においては、6歳から6年間の初等教育と3年間の中等教育が義務教育であるが、教育費は有料であった。1992年の第4次改正憲法では、すべての人の教育の機会均等がうたわれ、それを受けて1994年から段階的に初等・中等の義務教育は無料となった。中等教育修了後は、統一試験の合格者のみが高等教育に進学できる。その後は3年間の商業技術・職業技術専門学校、教員養成カレッジ、4年制の大学へ進む選択がある。現在、政府は教育の10カ年計画において、国家の経済戦略の一環として、多様な新技術を実践できる柔軟な労働力となりうる人材の養成に焦点を当てている。

◆初・中・高等教育

ガーナの初等教育就学率は女子72%、男子77%とアフリカ諸国の中では高い方であり、しかも男女の開きが比較的小さい。しかしながら貧困のために中途退学する女子が多く、特に北部3州（ノザン、アパーウエスト、アパーイースト）での中退率が高いといわれる。その結果、中等教育就学率は男子57%に対して女子は41%、高等教育（大学）就学率は男子41%に対して女子9%と、教育レベルが上がるほど、就学率の男女格差が開いていく（Fayorsey, 1997）。

就学率が低下する原因としては、留年、中退、死亡、移住などが考えられる。すべての教育レベルにおいて男子より女子の中退率が高く、特に第1学年から第2学年に進級する時、また、初等教育から中等教育に進学する時に就学率が下がる傾向がある。第1学年終了後の男子の中退率は10%であるが、女子のそれは13%である。小学校に入学した者が小学校を修了する比率は、男子が57%であるのに対し、女子は44%である。学校に行かない、あるいは学校をやめる最大の理由は、家庭が貧困なため教育にかかる諸経費を払えないこ

とである (Friedrich Ebert Foundation, 1994)。

高等教育の専攻分野においては、性別によるステレオタイプが存在しており、例えば女子が芸術を専攻するのはよいが数学を専攻するのはふさわしくないと考えられている。科学を専攻する女子の比率はこの10年間に徐々に高まっているが、いまだに男子学生の方が女子学生を圧倒している。そのため、教育省は他の政府機関やNGOとともに、科学、技術、数学などの学部で女子学生の数を増やすための特別プログラム（教材の開発など）を行っている。また、教育省は女子学生と男子学生の数の不均衡を是正するための教育の機会均等プログラム (Equality Improvement Programme) を推進しており、その結果、特に北部ではあらゆる学校で女子学生の就学率、在籍率が向上している。

◆教員

小学校教師一人当たりの生徒の割合は、1990年には29人である (国別医療協力ファイル、1994)。女性教員の比率は教育レベルが上がるにつれて減少し、初等教育では27%であるのに対し、大学ではわずか4%である。この女性教員の絶対数の少なさは、女子にとっての役割モデルが欠如していることを示しており、女子教育を促進するための望ましい環境は整っていない。

◆識字教育

ガーナにおける非識字者は年々減少しているが、女性非識字者の比率 (46%) は、いまだに男性非識字者の比率 (24%) の2倍である。教育省の行うノン・フォーマル教育部門では、非識字者の訓練参加が奨励されている。1992/93年度のノンフォーマル教育参加者のうち、女性は54%を占め、女性の中退率は男性に比べて低かった (Friedrich Ebert Foundation, 1994)。

◆職業・技術訓練校

3年間の高等教育修了後、3年間の商業技術、職業技術の各種専門学校、教員養成カレッジへ進むことが可能である。しかし、職業・技術訓練校での女性の就学状況等は不明である。

表1 教育指標 (%)

指標	全体	女性	男性
成人識字率 1995	65	54	76
初等教育総就学率 1990-94	76	70	83
中等教育総就学率 1990-94	N.A.	28	44
高等教育総就学率	N.A.	N.A.	N.A.
政府予算に占める教育予算割合 1990-95年	22		

出典：世界子供白書1997

表2 識字率の変遷 (%)

	1981	1985	1990	1995
女性	35	43	51	49
全体	46	N.A.	60	N.A.

出典：Fayorsey, 1997

表3 女性教員の比率 (%)

初等教育	中等教育	教員養成学校	工芸学校	学位授与機関	大学
27	17	21	20	15	4

出典：Fayorsey, 1997

2-2 保健医療

- 1) 子供の主要死因は栄養不良、マラリア、下痢症等であるが、全国的なデータは未整備である
- 2) 女性の性器切除の風習による分娩時の出血多量、非衛生的な中絶が妊産婦死亡率を引き上げている
- 3) 女性は子供数に関して意志決定権を持っておらず、近代的避妊実行率は10%程度である
- 4) ガーナでは女性のHIV感染者が男性の2倍報告されており、貧困による売春婦の存在、一夫多妻制などがその理由として挙げられている

◆概況

ガーナでは、地域住民に届くプライマリー・ヘルス・ケアの基礎作りは1980年代の半ばより始まった。基本政策は母子保健、予防接種、下痢症対策（経口補水療法の普及）、感染症予防、栄養対策などである。保健医療システムは3段階に分かれており、妊産婦ケアや小児保健などの地域医療はコミュニティー・ヘルス・ワーカーと伝統的産婆（TBA）が担っている。乳児死亡（1年未満）の半数が生後1ヵ月以内の死亡である。予防接種率はキャンペーン期間中は伸びるが、活動終了後、急速に低下することが過去に多く、現地に定着しにくい（国別医療協力ファイル、1994）。

保健医療施設は都市に集中している。また、経済が混迷しているために水や居住環境の衛生も改善されておらず、農村部では安全な水へのアクセスがある人の割合は52%で、適切な衛生施設を持つ人の割合は44%である（世界子供白書1997）。環境設備は人口増加に追いついていない。川や池へ水汲みに行くのは女性と子供の仕事であり、その水が汚染されているため、水系感染症は依然として女性と子供の保健問題である。また、マラリアはこの国の主要疾病となっている。

◆母子保健

ガーナの妊産婦死亡率は740（対10万出生）で、開発途上国平均477（同）と後発開発途上国平均1052（同）の中間に位置づけられる（世界子供白書、1997）。しかしながら、この数字には、非合法の人工妊娠中絶による死亡がいっさい含まれないため実際にはさらに高いことが指摘されている。未婚女性の妊産婦死亡の取り扱いや死亡原因の判断等の基準も一定しておらず、統計ごとに誤差を生じる原因となっている。妊産婦死亡の原因は出血多量、感染症、子宮破裂、貧血など、途上国で一般的なものである。また、出産時の異常出血の要因の一つとして、現在でも30%の女性が受けている性器切除の風習が挙げられている。また、非合法のため、非衛生的な状態で行われることが多い中絶によって命を落とす女性も多い。10代の妊娠は全体の20%で、そのうち望まぬ妊娠が60%を占めている（国別医療協力ファイル、1994）。

伝統医療がいまなお住民の中に根付いており、訓練を受けた保健員の付き添う出産が44%である一方、伝統的産婆（TBA）による出産介助も31%を占めている。また、妊娠・出産にまつわる感染症、子宮癌、不妊などに対する全国的なスクリーニングや管理プログラムが行われていないとの指摘もある（Fayorsey, 1997）。さらに、農村部では妊婦が摂取する食物に関する風習やタブーが残っており、蛋白質不足や脂肪不足など栄養不良を起こす妊産婦が多い（Friedrich Ebert Foundation, 1994）。

一方、乳幼児の死亡原因としては、新生児死亡、栄養不良、マラリア、腸チフス、脳炎、下痢症等が病院、及び統計局から挙げられている。しかし、死亡時に医療機関との接触がないこと、医療機関が正確な死因を診断できないことなどにより、子供の死因に関する全国的なデータ整備は今後の課題となっている。

◆家族計画

1980年代より家族計画が進み、合計特殊出生率（女性1人が生涯に産む子供数）は減少傾向にある。しかし、都市と農村で非常に格差があり、首都アクラのあるグレイターアクラ州では3.4であるのに対し、北部ノーザン州では7.4と2倍以上である。何らかの近代的避妊法を知っている既婚女性は9割にのぼるが、実行している女性は1割と、知識と実行の間で大きな開きがある。ガーナでは知識を持っていても家族計画について夫婦間で話ができず、特に子供の数に関しては女性は意志決定権を持っていない。また、結婚し、多くの子供を産むことを良しとする社会通念が根強く残っている。避妊具は家族計画センターにおいても有料であるため、経済的理由から避妊を中断する場合もある。近年、エイズ感染を恐れて避妊具の主流がピル（普及率3.2%、1993年）からコンドーム（普及率2.2%、同）に移行しつつあるが、ピルに比べてコンドームの値段が高い、男性の理解を得られないことから継続が困難な家庭もある（国別医療協力ファイル、1994）。

◆エイズ

1992年までの推定HIV感染者数は15万人で、アフリカ諸国では11位、隣国のコートジボアール（1992年までの推定HIV感染者数は72万人）につき、西アフリカ諸国の中では2番目に多い。ガーナにおける特徴は、海外渡航経験のある女性に感染者が多く、男性（888人、1992年）の約2倍（1,718人、同）の感染者が報告されており、中でも15-29歳の年齢層では感染者の8割が女性と報告されている。また、HIVに感染した母親から生まれる新生児の3分の1が感染しており、比較的感染率が高い地域では新生児の約1%がHIVに感染している可能性があると報告されている（国別医療協力ファイル、1994）。HIV感染者に女性が多い理由として、貧困から売春婦として働かざるを得ない女性が存在すること、一夫多妻制により1人の男性感染者から複数の女性へ感染するケースがあることなどが考えられている（Friedrich Ebert Foundation, 1994）。

表1 保健医療指標

人口(人)*	17,900,000	低出生体重児の割合 1990-94 (%)	7
人口増加率 (%) *	3.0	1歳未満児の予防接種率 1992-95	
15歳未満人口割合 (%) *	45.4	BCG	70
15-64歳人口割合 (%) *	51.7	ポリオ	55
65歳以上の人口割合 (%) *	2.9	DPT	55
出生時の平均余命 1995 (年)	57	麻疹	46
粗出生率 1995 (対人口1000人)	41	妊産婦死亡率 1990 (対出生10万)	740
粗死亡率 1995 (対人口1000人)	11	保健員の付き添い出産比率 1990-96 (%)	44
乳児死亡率 1995 (対出生1000)	76	合計特殊出生率 1995	5.7
5歳未満児死亡率 1995 (対出生1000)	130	避妊法の普及率 1990-96 (%)	20
5歳未満中重度の発育障害児の割合 (%)	26	政府支出に占める保健支出 1990-95 (%)	7

出典：世界子供白書1997 *：Fayorsey 1997

表2 付き添い分娩の割合 (%)

医師の付き添いによる分娩	6.5
訓練を受けた看護婦の付き添いによる分娩	37.3
伝統的産婆の付き添いによる分娩	30.6

出典：Fayorsey, 1997

表3 医療従事者へのアクセス

医師一人当たりの人口	28,367
看護婦一人当たりの人口	1,394

出典：Fayorsey, 1997

表4 地域別保健サービス格差

	全国	都市	農村
総人口に占める安全な飲料水を手に入れる人の比率 (%) (1990-96)	65	88	52
総人口に占める適切な衛生施設を利用できる人の比率 (%) (1990-96)	55	62	44
総人口に占める保健サービスを受けられる人の比率 (%) (1990-95)	60	92	45

出典：世界子供白書 1997

2-3 農林水産業

- 1) 農業はガーナの主要産業であり、女性労働人口の59%が農業分野に従事している
- 2) 女性の土地所有者は男性に比べて少なく、部族、地域によっても大きな格差がみられる
- 3) 女性は農業生産性を高めるための融資・資機材・技術へのアクセスが少なく、時間と労力のかかる初歩的な技術を使っていることが多い
- 4) 水産業においても女性は加工、販売、運搬等の重要な役割を果たしている

◆概況

ガーナでは人口の70%が農村部に居住しており、人口の66%が農業を営んでいる。農業部門は国内総生産(GDP)の50%を占め、農産物は輸出品の70%近くを占めている(Fayorsey,1997)。女性は小規模農場の中心的な労働力として日常的な農作業をこなし、農業全般に必要な総労働時間の3分の2をこなしている。国内では貧富の南北格差が大きく、現金収入の得られにくい北部では乾期に食糧が不足するため飢餓に瀕している地域も存在する。

政府は1991年に中期農業開発プログラム(Medium Term Agricultural Development Programme: MTADP)を開始した。この中で掲げられている農業分野の開発戦略は、①小規模農場の生産性向上、②マーケティング・配送経費、仲介費用の抑制、③ガーナの主要作物である根菜類、イモ類、プランテン(料理用バナナ)の生産量維持、④穀物、産業用原料、家畜、水産物、非伝統的な作物の加工・輸出促進である。

◆土地所有権

ガーナは農業国であるため、土地の所有権は農村部では非常に重要なものである。ガーナの父系社会においては、父方の血統によって相続・遺産が行われ、女性は結婚により夫を通じて土地を所有するが、土地へのアクセスを持ちうるのは結婚が継続されている期間のみである。したがって、夫を亡くしたり離婚した場合は、女性は土地も失う。しかしながら、息子の土地を預かる形で未亡人が土地を維持したり、成長した息子や兄弟が所有する土地へのアクセスを女性が持つことも珍しくはない。また、土地相続の方法は多様な部族の慣習によっても変わってくる。

農業省からのデータによれば、女性の土地所有権はガーナ10州の中で地域格差があり、南部のアシャンテ州では女性が土地所有者の50%以上を占めるのに対し、北部では2%にすぎない。近年、土地へのアクセスを拡大するために、女性は生協や村の女性グループを結成して活動を行っており、女性の農業従事者も増加している(Fayorsey,1997)。

◆農業

ガーナでは、女性労働力の59%が農業に従事している。換金作物を生産している女性は少ないが、国内の食糧穀物の7割を女性は生産している。女性は家族農場の管理者であり、植え付け、除草、収穫に関し責任を持っている。一方、女性は男性が所有している換金作物の栽培も手伝う。また、女性は頭上に収穫作物を載せ、家、村の市場などへ運ぶ役割も担っている。近年、女性世帯主の農家が増加し、家庭内、および生産分野での女性の責任範囲が広がっている。その一方で、女性を含めた社会的弱者は、土地の生産性を維持するために必要な融資、資機材、技術へのアクセスが限られている(Fayorsey,1997)。

◆農業普及員

農業普及サービスは、主に食糧農業省農業普及サービス局 (Extension Services Department of Ministry of Food and Agriculture)、地方行政省地域開発局 (Community Development Department of Ministry of Local Government)、保健省栄養局 (Nutrition Division of Ministry of Health) によって行われている。農業関連省庁における女性職員数は少なく、食糧農業省の中で女性職員の占める比率は13.6%、シニアクラスの女性職員は9.3%である。農業普及サービス局においては管理職レベルに女性は1人もいない。本部や地域の支部における技術者レベルで女性職員の占める比率は10-20%である。通常、女性は融資、土地、科学技術、普及サービスへのアクセスが男性より少なく、男性に比べて時間と労力のかかる初歩的な技術を使っていることが多い。この状況を改善するためには、女性の普及員を増やす必要がある (Friedrich Ebert Foundation, 1994)。

1988年、食糧農業省は農業開発と女性局 (Department of Women in Agriculture Development:WIAD) を設置し、農業、栄養、食品加工、食糧保存、住居改善に関する専門家養成プログラムを計画した。WIADは、女性農民、女性水産業者等に有益な農業政策、及び農業技術の開発の分野で食糧農業省を支援することが求められている。また、ガーナ地域技術産業サービス (Ghana Regional Technology Industrial Service:GRATIS)、NGO、国際援助機関は女性を対象としたプロジェクトを実施しており、女性の農業生産性を高めるための資源の投入や技術の提供を行っている。特に食品加工分野におけるプロジェクトが多い。

◆小規模融資へのアクセス

ガーナでは多くの女性が所属しているインフォーマルセクターへの銀行融資は非常に限られたものである。銀行が要求する保証人が得られる女性は少ない。また、女性は教育レベルや社会的地位の低さから、融資がどうしても必要な時でさえ、自らの状況を訴えて相手を説得する術を持っていない。

小規模産業のための国家委員会 (The National Board for Small-Scale Industries:NBSSI) によれば1993年には5種類、695の活動に向けて融資が行われており、そのうちの40%が女性である。女性だけの組織はENOWID (Enhancing Opportunity for Women in Development) プロジェクト一件で、それ以外はすべて男女双方からなる組織である。返済率は68~78%と高く、中でもENOWIDプロジェクトは返済率95%の高さである。このほか、女性たちに融資を提供している機関として、WWB (Women's World Banking)、MASU (Mutual Assistance Susu Limited)、PAMSCAD融資 (女性向け融資45%)、ガーナ生協融資連合 (CUA)、CIBA、CEDECOM、City Bankなどがあり、女性会員の比率は機関により異なっている。

◆林業

森林面積は国土の34%を占め、木材は主として燃料に使用されており、輸出用にはワウ、サベリ、マホガニー、ユーティル、ココロドゥア、コマレ等の樹種が栽培されている。木材、及び加工品は、ココア、金に次ぐ重要な輸出品となっている。しかしながら、林業への女性の参加についての情報は入手できていない。

◆水産業

ガーナは西アフリカの中で2大水産業国の一つであり、年間20万トンの漁獲高を誇っている。漁獲を担当するのは男性であるが、女性は魚の加工、販売、海岸から市場までの運搬を受け持っている。フィッシュ・マミーといわれる女性行商人の存在は、長い間、特に1980年代初頭から中頃にかけてガーナ経済が困窮していた時期にも漁業の繁栄を支えてきた。また、全国のうちあげ漁港に女性行商人がいることで伝統的なガーナの水産業が維持されている。FAOによれば、農業・水産業による生産物の60~90%は女性が取引している。

表1 州別女性土地所有者の比率 1988年 (%)

州名	女性所有者	州名	女性所有者
ウエスタン	32.0	ブロンゴアファソ	42.7
セントラル	47.9	ノーザン	1.9
イースタン	32.7	アッパーウエスト	3.8
ボルタ	43.4	アッパーイースト	29.3
アシャンテ	54.2	グレイターアクラ	N.A.

出典：Fayorsey,1997

2-4 経済活動

- 1) 女性の労働力参加率は78%と高いが、その9割がインフォーマルセクターで働いている
- 2) 販売・小売業、ホテル・レストラン業では、女性労働者の比率が9割近くを占める
- 3) 専門・技術職、行政・管理職に就いている女性は女性労働人口の1割程度である

◆ 概況

ガーナは他のアフリカ諸国同様、総人口に対する被扶養人口の比率が高く、労働人口に大きな比重がかかっている。政府は長年にわたり経済改革、及び公的部門改革を推進し、雇用を削減しているため、雇用の創出量が労働力参加人口の増加に追いついていない。しかし、この厳しい雇用環境にも係わらず、女性の労働参加はあらゆる分野で進んでおり、1992年の労働力参加率は、男性が74%であるのに対し女性は78%と推定されている (Fayorsey,1997)。

1988年に行われた生活水準調査によれば、女性は農業労働の47%を担い、また、販売・小売業、ホテル・レストラン業のそれぞれ86%を担っている。ガーナでは農業に加えて食糧の生産、加工、販売も女性の仕事とされ、都市から地方にいたるまで流通・小売りの中心的存在となっているのはマーケット・マミーといわれる女性商人である。

◆ 労働参加

ガーナでは女性の労働力参加率は高く、特に農村部においては女性の労働参加率は男性を凌いでいる。しかし、女性が働く目的は、家族の生計に貢献するためというのがほとんどであり、専門・技術職、行政・管理職に就いている女性は女性労働人口の10%程度である。特に女性の活躍が目立つのは農業（全体の47%）、通商・貿易（同、86%）、産業（同、21%）である (Friedrich Ebert Foundation,1994)。産業分野の中でも特に製パン業、服飾業では女性の参加比率は86%と高く、逆に織物業、鉱業ではそれぞれ7%、3%と女性の参加比率が低い (Fayorsey,1997)。

◆ 雇用労働

1988年の生活水準調査によれば、経済活動を行っている人口のうち自営業者の比率は、男性が71%であるのに対し、女性では91%と高い (Fayorsey,1997)。この特徴は女性の参加率が高い、農業分野、商業分野においては顕著である。また、女性の教育レベルの低さから、フォーマルセクターに従事する女性の仕事内容は単純で技術を要しないものが多い。そのため賃金・昇進の可能性は低く、また、女性が意志決定権を持つことは少ない。

ガーナの労働法は男女の雇用機会均等を保証している。また、妊産婦は有給の出産休暇を認められている。しかしながらガーナでは、女性の雇用労働者は全女性労働者の8%で、そのうち上記の規則が厳守されている公共機関に勤める女性は4%にすぎない。民間の保育所はあるが、使用料が高く働く女性のニーズに応えるものではない。そのため、民営のものより手頃に利用できる保育所を全国に作る活動を行っているNGOもある (Friedrich Ebert Foundation,1994)。

◆インフォーマル・セクター

1988年のデータによれば、ガーナの女性労働人口の9割がインフォーマルセクターで働いている。ここでいうインフォーマルセクターの中には農業も含まれており、食品加工、販売（マーケティング）、小規模製造業がそれに続く。これらの農業、小規模産業を営む女性たちは資本金に加え、生産手段としての機材を購入するための融資、あるいは生産技術やノウハウを必要としている。しかしながら、女性は正式な銀行貸付をはじめ土地・技術へのアクセスが限られているため事業を拡大できず、家庭生活を維持するのがやっとという程度の生産性を余儀なくされている。

インフォーマルセクターでは老後の社会保障などが整備されていないため、女性の社会保障受給者は全体の19%である。インフォーマルセクターにおける収入は非常に限られているため、老後の貯蓄をする余裕はなく、成長した子供を頼るしかない。このことが、ガーナでなかなか合計特殊出生率（1人の女性が生涯に産む子供数）が減少しない要因の一つとなっている。

表1 ガーナの主要労働指標

指標	全体	女性	男性
成人労働人口に占める女性比率 1990年	51%		
稼働所得割合 1993年	100	43.5	56.5
失業率	N.A.	N.A.	N.A.

出典：人間開発報告書1996

表2 産業別性別労働参加率 (%)

産業分野	女性	男性
農業	58.9	66.7
産業	10.0	14.9
サービス業	6.2	14.2
通商・貿易業	25.0	4.7

出典：Fayorsey, 1997

表3 専門分野別男女比率 1993/94 (%)

職種	女性	男性
裁判官/行政長官	12	88
警察官	9	91
刑務所員	21	79
会計士	1	99
ジャーナリスト*	19	79
エンジニア	1	99
医師	17	83
歯科医師	32	68
歯科技師	38	62
薬剤師	16	84
栄養士	76	24
看護婦	88	12
助産婦	100	0

*：合計が100%にならないが原典通り引用
出典：Fayorsey,1997

表4 意志決定権を持つ女性の比率 (%)

意志決定グループ	女性	男性
公営企業重役会	33	67
政府行政組織	12	88
取締役/上級管理職	6	94
立法機関	5	95
その他の機関	5	95
農場管理職	25	75
販売管理職	9	91
労働組合会員	25	75
職場女性クラブ	65	35

出典：Fayorsey,1997

3 WID/ジェンダー関連援助実績

情報が得られていない。

4 情報入手可能組織/人材リスト

	名称/氏名 (専門)	実績 (プロジェクト内容/ 期間、社会ジェンダー 分析の経験等)	報告書 /著作等	連絡先
政府機関	Family and Development Project National Board for Small Scale Industries (NBSSI), Gender Desk - Mrs. Rubby Dagadu The Ministry of Health, Mrs. Rejoice Nutacor National Population Council, Mrs. Esther Apeokin National Council on Women & Development, Ms. Atawa Akycsa, Mrs. Gifty Ohene - Konadu	1990-1996	Information on Women's Assess to Credit Information on Women in Health Information on Women and Population Issues Information on Women and Production	Tel: 500786, Legon Tel: 668641/2 Fax: 669707 Tel: 665444 Tel: 665421
コンサルタント	Dr. Clara Fayoursey, Gender Consultant Family and Development Project, University of Ghana, Legon. Mrs. Elizabeth Ardario - Shandorf, Gender Consultant University of Ghana, Mrs. Mariana Awumbila, Gender Consultant Institute of African Studies, University of Ghana, Legon Ms. Takyiwa Manu, Gender Consultant Institute of Statistical Social & Economic Research, Ms. Ellen Bortei - Doku Aryeetey, Gender Consultant		Empowering Women for Enterprenurship Development in Ghana Population Income Generation and Fertility Behavior among Rural Women in Ghana Commoditization of Childbirth : Female Strategies towards Autonomy among the Ga of Southern Ghana The Role of Donor Agencies in Population Policy Implementation in Ghana Urban Marketing System ; An Analysis of Operational and Environmental Condition of Markets in Ghana Women and Change in Ghana : The Impact of Environmental Change and Economic Crisis on Rural Women's Time Use Gender and Structural Adjustment in Ghana	Tel/Fax : 774657 Tel: 500786 Tel: 500385 Tel: 500512 Tel: 665778
研究機関	Magament Development Institute, MDPI GIMPC	Post Graduate Training, Provide Managerial Skills & Gender Awareness		

	名称/氏名 (専門)	実績 (プロジェクト内容/ 期間、社会ジェンダー 分析の経緯等)	報告書 /著作等	連絡先
NGO	African Centre for Human Development, Mr. Wilbert Tengey Freedom from Hunger, Mrs. Josephine Martei WILDAF, Mrs. Elizabeth Akpalu, Private Gender Consultant Center for the Development of People, Yaa Peprah Amekudzi 31st December Women's Movement, Dr. Nana Konadu, Agyeman - Rawling (Hon 1st Lady of Ghana)	Gender Consultant & Advocate for Women's Progress WID Training WID Programme / Training	Information on Women in Development Training on WID	Tel: 668641/2 Tel: 220138 Tel: 774828 Tel: 4003555 Tel: 051 26026, Kumasi Fax: 051 26026 Tel: 230366 Fax: 220303
その他	Women's World Banking, Mrs. Comfort Engman, Director Federal of Women Lawyers (FIDA, English Translation of Spanosh Acronym) Association of Women in the Media (ASWIM)	Women Credit Schemes Legal Issues on Women, Legal Aid Media Promotions of WID		Tel: 222497/667748

5 関連文献リスト

文献名	著者	発行年	入手先
教育・訓練			
Feminism and Social Justice in Education : International Perspectives	Amor, M. & Weiler, K. eds.	1993	British Council
Gender Matters in Educational Administration and Policy : A Feminism Policy	Blackmore, J. & Kenway J. eds.	1993	British Council
Parents, Gender and Education Reform	David, M.E.	1993	British Council
Gender and Classroom Interaction : Implications for Teacher Education	Dolle Willemssen, D. & Rodenburg Smith, H., eds.	1993	British Council
The 'Girl Question' in Education : Vocational Education for Young Women in the Progressive Era.	Powers, J. B.	1994	British Council
Women, Literacy, Income Generation	Rogers, A.	1994	British Council
Ghanaian Women in the Formal Sector : Social Mobility through Education in Greenhill Journal of Administration	Ardayio Shandorf	1990	GIMPA
Gender Issues in Higher Education in Ghana in Building Technical Capacity and Gender Advocacy of Young Professional African Women	Alexina Arthur	1993	U. G Balme Library, Legon
"Analyzing Human Resource Effects Education" in Demery L, Ferroni M, Grootaert C. (Ed) with Wong Valle, J. " Understanding the Social Effects of Policy Reforms "	World Bank	1993	UNDP Library
保健・医療			
Women and HIV/AIDS : An International Resource Book	Berer, M. & Ray, S.	1993	British Council
Women's Medicine : Zar -Bori Cult in Africa and Beyond	Lewis, L.M. & others, eds.	1991	British Council
Women and Health	Snyke, P.	1993	British Council
Adolescent Fertility and Reproductive Behavior in Ghana : The Case of Accra and Kumasi	Prof. John S. Nabila and Dr. Clara Fayorsey	1996	FADEP
経済活動			
Gender, Work and Population in Sub - Saharan Africa	Adcpoju & Oppong C., eds.	1994	British Council
Gender, Small - Scale Industry and Development Policy	Baud, L.S.A. & de Bruijone, G.A., eds.	1993	British Council
Blacksmith Baker, Roofing - Sheet Maker -Employment for Rural Women in Intermediate Technology	Carr, M.	1984	British Council
Gender and Trade Unions	Lawrence, E.	1994	British Council
Enterprising Women : Ethnicity, Economy and Gender Relations	Westwood, S. & Bhachu, P.	1988	British Council
Ghana Directory of Industrial Establishments	Ghana Statistical Service	1988	Statistical Service
"Opportunities and Constraints on the Participation of Women in Small Scale Mining in Ghana - Preliminary Survey Results and Recommendations " in UN 1993 Guidelines for the Development of Small / Medium Scale Mining	Ofei - Aboagye E.	1993	GIMPA
Access of Women to Employment in Ghana, Paper Prepared for the Ghana Trades Union Congress	Akufo A. D.	1994	University of Ghana Balme Library
Dimensions of Sex Discrimination : The Ghanaian Working Women's Experience Greenhill Journal of Administration	Akufo A.	1990	University of Ghana Balme Library
"Ghanaian Women in the Formal Sector : Social Mobility through Education " in Greenhill Journal of Administration	Ardayio Schandorf E.	1990	University of Ghana
Women Beneficiaries of the Facilities of the National Board for Small Scale Industries Paper Presented at NBSSI Workshop on Gender Issues in Small Enterprise Development	Dagadu R.	1996	NBSSI
"Occupation of Women in Ghana " in Proceedings of Seminar on Ghanaian Women in Development Volume I ; National Council of Women and Development	Ewusi, Kodwo	1978	University of Ghana Balme Library

文献名	著者	発行年	入手先
Ghanaian Women, Economic Crisis and Access to Resources Paper Presented at the Annual Conference of Centre of African Studies, University of Edinburgh	Mensah Bonsu H. J. A.	1990	Law Faculty, University of Ghana
Report of the Specialist Committee on Women in Employment International Labor Organization / United Nations Development Programme / Ministry of Employment and Social Welfare Umbrella Project	National Council on Women and Development	1995	NCWD
農林水産業			
The African Farmer	FAO	1991	University of Ghana Balme Library
Rural Women and Food Security : Current Status and Perspectives	FAO	1996	FAO Headquarters
Women's Work in Third World Agriculture	Dixon - Mueller, R.	1995	University of Ghana Balme Library
FAO Plan of Action for Integration of Women in Development		1988	FAO Headquarters
Women's Role in Economic Development	Boserup, E.	1970	University of Ghana Balme Library
Proceedings for Seminar Households in Bolga, Upper East and Northern Regions	Ghana Association for Women's Welfare	1986	University of Ghana Balme Library
Ghana Medium Term Agricultural Development Strategy		1990	University of Ghana Balme Library
Enhancing Opportunities for Women in Development	UNDP	1994	University of Ghana Balme Library
FAO/WHO Report of Ghana National Food and Nutrition Policy and Plan of Action	FAO/WHO	1988	FAO Headquarters
FAO Report on the Availability of Gender Desegregated, Agricultural Data in Ghana (draft)	FAO	1995	FAO Headquarters
Adjustment with a Human Face - Protecting the Vulnerable and Promoting Growth	Comia, G. A.	1987	University of Ghana Balme Library
Ghana Role of Women in Food Production	C. Obeng - Boampong (Mrs.)	1989	NCWD
Proceedings of the Seminar on "Ghanaian Women in Development "	National Council Women and Development	1978	NCWD
The Charcoal Cycle in Ghana a Baseline	K. S. Nkeiah, E. B. Hagan, S. T. Addo (Dr.)	1988	NCWD
Survey in Zambia, Cameroon and Ghana on Women as Small - Scale Entrepreneur	UNECA	1987	NCWD
Women in Cottage Industry : A Study of the Fish Processing Industry in Kokrobite and Chokomey	Faustina A. E. Agbemetsi	1996	Sociology Department, University of Ghana
Planning Income and Employment Generation for Rural Women	Susan Matik	1995	NCWD
Women's Access to Agriculture Land in the Household : A Case Study of Three Selected District in Ghana	Prof. George Benneh, R. Kasim Kasanga and Doris Amoyaw	1996	FADEP
その他			
Gender Planning and Development : Theory, Practice and Training	Moser, C. O. N.	1993	British Council
Women and Power : Gaining Back Control	Pearson, V.	1992	British Council
Dealing with Inadequately : Analyzing Gender Relations in Melanesia and Beyond	Strathm, M., ed.	1987	British Council
Planning Development with Women : Making a World of Difference	Young, K.	1993	British Council
The Dynamics of 'Race' and Gender : Some Feminist Interventions	Afsher, H. & Maynard, M.	1994	British Council
Independent Benefits for Men and Women : An Enquiry into Options for Treating Husbands and Wives as Separate Units in the Assessment of Social Security	Esam, P. & Berthoud, R.	1991	British Council
The Human Factor in Rural Development	Evers, B.,	1991	British Council
Women and the Environment	Rodda, A.	1991	British Council
"The Impact of Adjustment of Women" in Demery L., Ferroni M., Grootaert C. (Ed) with Wong Valley J. Understanding the Social Effects of Policy Reform World Bank Study	Collier P.	1993	University of Ghana Balme Library

文献名	著者	発行年	入手先
The Emancipation of Women : An African Perspective Ghana University Press	Dolphyne F.	1991	University of Ghana Balme Library
Study of Women in Public Life in Ghana	Institute of Statistical Social and Economic Research (ISSER)	1996	University of Ghana Balme Library
Women in Consultancy : Problems and Prospects, Paper Presented at the UNDP Developing Local Consultancy Capacity Project / NCWD Seminar	Mensah Bonsu H. J. A.	1990	Law Faculty, University of Ghana
Children and Women of Ghana : A Situation Analysis Accra	Republic of Ghana / UNICEF	1990	University of Ghana Balme Library
Gender Roles in Household Allocation of Resources and Decision - Making in Ghana	Charles K. Brown	1990	FADEP
Reproductive Decision - Making within the Ghanaian Family	Daniel Buor	1994	FADEP
Family Dynamics and Residential Arrangements in Ghana	Hodiak Addai Sundiata	1994	FADEP
Family and Development in Ghana	Elizabeth Ardeyfo - Schandorf	1995	FADEP
Impact of PAMSCAD on the Family : A Study of the (ENOWID) Intervention in the Western Region of Ghana	Elizabeth Ardeyfo - Schandorf, Charles K. Brown and Petter B. Aglobitse	1995	FADEP

6 当調査実施に関する情報

◆ローカル・コンサルタント

Dr. Clara Korkor Fayorsey
Senior Lecturer, Sociology Department,
University of Ghana, Legon Accra
Tel/Fax : 774657

7 引用文献

厚生省、1996、「開発途上国の母子保健」、厚生省

国際協力事業団、1995、「国別援助検討会報告書 ガーナ」、国際協力事業団

国際協力事業団、1994、「国別協力情報ファイル：ガーナ」、国際協力事業団

国際協力推進協会、1992、「ガーナの経済社会の現状」、国際協力推進協会

UNDP、1996、「人間開発報告書1996」、UNDP

UNICEF、1996、「世界子供白書1997」、UNICEF

Ardayfio - Schandorf, Elizabeth, 1994, The Status of Women in Ghana (1985- 1994), The Auspices of the Friedrich Ebert Foundation, Accra.

EIU, 1995, Country Profile : Ghana 1995-96, EIU.

The Europa Publications, 1996, The Europa World Yearbook : Ghana, The Europa Publications.

Fayorsey, Clara Korkor, 1997, Women in Development : Ghana Country Profile Study, submitted to JICA Ghana Office.

Ohene - Konadu, Gifty, 1996, Seminar for Senior Officers of the National Machineries for the Advancement of Women : Country Report, The Government of Japan and JICA.

Republic of Ghana, 1995, Ghana - Vision 2020 (The First Step : 1996 -2000), Presidential Report to Parliament on co - ordinated Programme of Economic and Social Development Policies (Policies for the Preparation of 1996 - 2000 Development Plan), Republic of Ghana.

UNICEF and Government of Ghana, 1995, Master Plan of Operations 1996 - 2000, UNICEF and Government of Ghana.

UNICEF - Ghana, 1995, Ghana : Programme 2000, UNICEF - Ghana.

World Bank, 1992, Fact Sheet Ghana : Gender Issues, World Bank.



